

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに理念を掲げ、職員の出勤時には必ず目を通し、心に留めるようにしている。入居者一人ひとりの思いを大切に介護を心掛けている。	各ユニットのスタッフルームに掲げ、出勤時に必ず確認している。また、カンファレンス時に話し合い、理念の確認と周知を職員に徹底させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人に大切にされており、地域の中での生活が自然な形で定着している。	地域活動へ参加したり、夏祭りに招待してもらったりしている。また、地域住民が自宅で採れた野菜を提供してくれたり、地域の防災情報や行事予定等を教えてくれたりしている。地域の一員としてかわいがられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の様々な行事に参加したり、事業所の行事にも参加して頂いたりして、しっかり交流しており、事業所の色々な経験や介護をしながら得た知識等を地域の方々に役立てて頂く機会を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の活動は、有効に活かされていない。	2ヶ月に一回開催している。公民館長、愛育委員、支援センター長等が参加している。ホームの行事報告(写真付き)を活かして、地域に広報活動している。活発な意見・情報交換が行われており、サービスの向上に繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域高齢者支援センターとは綿密に連絡を取り合っている。色々な協力をして頂いている。また、情報等も早く頂いている。	市担当者と連携した取り組みは少ないが、支援センター主催で勉強会を行ったり、ケアマネージャーを通して、サブセンターと交流を図りながら、市町村に働きかけている。また、生活保護の関係で、ホームに市の担当者が来訪する機会もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	良く理解しており、絶対に抑制の無い介護を目指している。玄関・その他の施錠は行っていない。介護も創意工夫し、拘束しない介護を実践している。	玄関は施錠されておらず、自由に表出できる様になっている。夜間寝付けない人にも、抑制しないで話に付き合ったり、帰りたい願望がある人にも、一緒に散歩や外出支援に取り組んでいる。理念に沿ったケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についてよく話し合い、虐待が見過ごされることがないように、職員が注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の生活が困ることのないよう、制度の活用・支援に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明は丁寧にするよう心掛けている。質問には謙虚に対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員を受け入れたり、家族会を開催したりして、意見を聴いている。また、日常的にも意見を遠慮なく表して頂けるよう機会や時間を取っている。	年1回の家族会や運営推進会議、家族来訪の際に直接、意見や要望等を聞くようにしている。また、家族から心配ごとがあれば相談にのり、家族が安心してホームに任せられる支援に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の担当者会議やその他の集まりなど、また、必要な時に色々意見や提案をもらい、運営に反映している。	代表者や管理者は、夜間帯やカンファレンスを利用して、職員から意見や要望等を聞き取りし、運営に役立てている。また、職員の自由性を尊重し、利用者に合わせて仕事できるよう工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働き、やる気の出る明るい職場になるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内・外での研修の機会を多く持てる様にし、介護の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホーム・他の職種の事業所と交流があり、お互い刺激し合いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントやケアマネージャーからの情報等でしっかり思いや希望を聴くようにしており、安心して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との関わりはとても大切なので、しっかり時間をかけてお話を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	短期入所、お試しでの入居、信頼できる医療機関の選択、訪問看護の利用等の現実的な相談にのっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に調理したり、買い物にいたり、また、洗濯・片付けを一緒にしたりして、共同で生活しながら色々教えて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にはよく協力して頂いている。外泊したり、家族と外出したり、また、泊って頂いたりしている。通院の援助も時にはして頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人がいつでも遠慮なく訪れるよう、来やすい雰囲気作りを心掛けている。職員も一緒に係わらせて頂き、何時までも良い関係で居られるよう配慮している。	散歩途中に、顔見知りの人に挨拶したり、七夕の短冊を家族に送ったりして、馴染みの人や家族との縁を大切に支援している。また、職員も協力して、近隣住民との交流や家族への手紙等、関係作りに取り組んでいる。また、盆や正月に自宅に帰省することで、より家族との交流を深めてもらおうと支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活歴、性別、職業等、全く違う方との共同生活なので、折り合って気持ち良く生活して頂くためには職員の適切な配慮が必要である。共に生活する喜びを感じて頂きたいです。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	共に生活したいという事は、いつも気になる関係が本人とも家族とも続きます。いろんな相談にのりたいです。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いを把握し、本人の意向に沿った生活になるよう職員は絶えず相談し、検討している。	入居前に担当していたケアマネージャーや家族から、普段の生活状況や意向・要望等を聞き取りしたり、入居後の生活の中で見られる仕草や表情で、意向等を汲み取りながら、本人の思いや意向に合わせた支援を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・家族・ケアマネージャー・利用事業所・知り合い等、関わりのあった方等に教えて頂いたりして、これまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前に家族・入居前のケアマネージャーなどから聴いてはおくが、入居してからも日々の生活の中で職員が丁寧に現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護職員・看護職員・ケアマネージャー等と随時担当者会議を開催しており、本人・家族の意向を尊重しながら、現状に即した介護計画を作成している。	アセスメントシートは担当制である。プラン作成においては、基本的には職員全員で話し合い、現状把握した上でケアプランに反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々利用者ごとに詳細に記録し、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の介護にタイムスケジュール等は作っておらず、その時々ニーズに合わせて職員が相談しながら柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーで買い物をしたり、近所のお宅にお邪魔させて頂いたり、子供会・老人会・介護施設などの他事業所等、地域の会や行事に参加させて頂いたり、小学校の運動会に行ったり、様々なことで地域の恩恵を受けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携している医師はとても協力的で2週間毎に往診に来て下さり、適切な医療をして下さっている。家族への説明や相談にも良い対応をして下さっている。薬局も薬の管理・相談への対応をよくして下さい。	協力医療機関より、週2回の往診があり、緊急時の対応も円滑に行われている。歯科の往診もあり、適宜対応している。また、胃ろうや在宅酸素の方でも可能な限り、協力医療機関と連携して適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は入居者の体調を良く把握しており、医師と連絡を取りながら、利用者の健康管理に努めている。緊急時においても、いつも連絡できる体制にあり、適切な対応をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	認知症の方は特に環境の変化に弱いので、入院は出来るだけ短期間になるよう配慮してもらっている。重井病院と提携しており、オリーブの連携医師・家族と連絡を取りながら安心して療養生活を送れるよう気を配っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応・指針については、あらかじめ家族に説明している。	入居時に看取りについての方針を家族に説明している。終末期においては、家族や提携医と相談しながら、判断している。看取りの実績もあり、カンファレンスを利用して、方針の確認・支援方法等を職員間で共有するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の知識・初期対応について会議で話し合っており、職員は共通認識をもっている。急変時、医師・看護師・施設長への迅速な連絡が出来るようにしている。急変時に備えて書類も整理している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の災害対策に当施設も組み込まれており、事業所としても避難できる方法を常に話し合っている。年2回の避難訓練も実施していて、災害に対する体制を整えている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を行い、近隣の消防署にも報告している。また、併設のデイサービスと一緒に避難訓練や通報訓練を行っている。警報器の使用法や消化器の使い方まで、消防署から指導を仰いでいる。地域の防災計画を作成中である。	開かれた地区であり、地域との交流も深いので、是非とも、地域の方々と一緒に避難訓練が開催されることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に一人ひとりの人格を尊重した言葉かけ・介護をするよう事業所の基本的な方針にしている。居室も各部屋にトイレ・洗面を備え、また、ドアも中が丸見えにならないよう配慮しており、事業所の創立当初より、もっとも大事に考えているところです。	各居室内にトイレ・洗面台を設置しており、個人のプライバシーを尊重した設計となっている。「ちゃん」付けを禁止しており、その人その人に合った言葉かけで対応している。日常生活での会話等、接遇的な事は随時、指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が認知症になり、自分の思いや希望を表せにくい状態になっているので、職員は入居者の心に寄り添い、思いを汲み取り、希望を表すことができ、希望に添えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のタイムスケジュールを職員の都合で決めるのではなく、個々の利用者の希望に沿った日々の暮らしになるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症になり、自分の身だしなみが出来なくなっている方がほとんどであるが、整髪・理容・整容等、その人らしい身だしなみが出来るよう気を付け、援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の好み・楽しみを大事にして、入居者と一緒に楽しく買物・調理をし、一人ひとりに合った食事を提供している。また、外食をしたり、庭で食事をしたり、2ユニット一緒に食事をしたりしている。	個々の食事形態に合わせた調理法で食事を提供している。献立は入居者さんの希望も取り入れながら、栄養士の管理の下、スタッフと入居者が楽しみながら作成している。また、入居者さんにも食の楽しみを味わってもらうために、各自の能力に合わせた手伝い(下ごしらえ等)をお願いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員の中に栄養士がいるので、1日を通じての栄養バランス・水分量などには注意を払っている。また、一人ひとりの状態や習慣をよく把握して、個々に合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨き・義歯の清潔の確保等、職員が一人ひとりに合った口腔ケアをしている。また、提携の歯科医からもアドバイスをもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各居室にトイレがあるので適切にトイレ誘導し、トイレでの排泄や排泄の自立の支援をしている。	各居室にトイレを設置しているので、必ず自室に戻って排泄するように声かけしている。また、プライバシー保護を前提とした、早めの声かけ誘導や聞き取りを行い、失禁を防ぐ工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	腸が良く動くよう体操をしたり、散歩をしたり、また、食事・水分に気を付けたり、一人ひとりに合った工夫・努力をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆったりと入浴を楽しんで頂いている。一人ひとりの習慣・希望に添って入浴している。清潔保持のためにも適切に支援している。	2日に一回のペースで、入浴支援を行っている。入浴を拒否する人には、他の入居者と一緒に入浴を勧めたり、職員を入れ替えたりしながら対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室はゆったりと広めで、寝心地の良いベッドが備えてある。一人ひとりの習慣に合わせて部屋の温度を調節したり、明りを調節したり、優しく話しかけたり工夫しながら安心して眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師・薬剤師・看護師・介護職員が症状の変化を確認し、連携を取りながら適切に服薬の支援をしている。特に薬剤師は医師・看護師と連絡を密にして服薬支援をし、利用者が困ることの無いようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ガーデニングを楽しんだり、歌を歌ったり、編み物をしたり、パズルを楽しんだり、個々の好みに合わせて楽しく過ごされている。少しお酒を飲まれることもある。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は、ほぼ毎日している。ドライブにも良く出かけている。景色を見て季節の変化を楽しんでもらっている。みんなで出かける時もあれば、一人ひとり希望にそって出かける時もある。家族の援助のお出かけもよくある。	近隣への散歩やドライブに出かけている。また、家族と一緒に外出したり、誕生日等、個別に外出に出かけている。近隣住民からの声かけや家族の力添えで、安心して外出できる環境がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金のトラブルは避けたいが、お金を持っている安心感があったり、買物の楽しみがあったりする ので、一人ひとりの希望・状態を考慮しながら適切に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と連絡を取ったり、声を聴いたりするのは人として当たり前のことなので、安心にも繋がるので普通に電話をしたり、手紙のやり取りもしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地の良い空間作りにはとても配慮している。壁に飾る物も質の高い穏やかで品の良い物を配置している。普通の家庭の居間に置かないような物は決して置かないようにしている。居心地の良い季節感のある空間作りには常に気を配っている。	共用空間内は衛生的に管理されており、掃除も行き届いている。清楚な版画やパステル画等が随所に飾られた中で、ゆっくりくつろげるスペースを設け、のんびりと生活できる様に工夫している。換気も十分に行われており、異臭もなく、天窓から心地よい風や光が取り込めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広くゆったりとした空間になっており、また、一人になれるようなスペース・ソファ・畳コーナー等があり、思いのままに穏やかに過ごせる空間作りになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広さも確保され、落ち着いた作りになっている。家族・本人と相談しながら使い慣れた物を備えたり、写真・絵・花などを飾ったり、本人の落ち着ける空間作りを支援している。	入居者自身で気に入った物や、昔から使い、慣れ親しんだ家具や仏壇を持ち込み、各々居心地良い空間に仕上げています。また、居室内にトイレ・洗面台を設置し、プライバシー確保が保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立した生活が出来るよう、また、出来ることは継続できるよう、当たり前の生活を当たり前にすることが出来る環境を整えることに力を注いでいる。		